



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

ごあいさつ

泌尿器科・副腎内分泌外科 部長 小島 祥敬



本年5月より、泌尿器・副腎内分泌外科部長を拝命致しましたので、ご挨拶申し上げます。

私の泌尿器科領域での専門は、①泌尿器科腫瘍やお子さんの先天性尿路疾患に対して行う腹腔鏡下手術とロボット支援下手術、②加齢とともにひき起こされるおしっこの問題、すなわち前立腺肥大症や過活動膀胱

などの排尿障害に対する薬物治療です。

特にこれまで、患者さんに優しい手術（低侵襲手術）である腹腔鏡下手術やロボット支援下手術に積極的に取り組んできました。副腎腫瘍、腎臓がん、腎盂尿管がん、前立腺がんなどの腹腔鏡下手術を段階的に導入し、新規腹腔鏡下手術の開発に関わってきました。また、最近では難易度の高いお子さんに対する先天性尿路疾患に対する尿路再建

術や前立腺がんに対するロボット支援下手術の必要性を感じ海外留学し、現在もペンシルバニア大学との手術開発の共同研究を行っています。こうした先進的医療を、本院において患者さんにご提供できる環境整備を、順次進めてまいりたいと考えています。

私は学生・研修医時代を含め20年間近く公立大学病院（名古屋市立大学）に従事しました。そこで感じたことは、国立や私立大学病院とは異なり、公立大学病院にとって“地域”は特別な意味を持ち、地域に根づく医療を行うことが大切だということです。特に、福島県においては、未曾有の大震災による医療サービスの低下、医師不足と偏在など、医療を取り巻く環境は厳しいのが現状です。県民の皆様が、住み慣れた地域で生涯安心して暮らせる、心の通う医療の実現と、大学病院を中心とした医療連携体制を再構築することに、微力ながら取り組みたいと思います。皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

ストーマ外来のご紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 齋藤 優紀子

看護外来はご存じですか？

看護外来とは、その分野において専門的な知識・技術を持った看護師が、患者さんやご家族にケア・指導を行う、相談を受けるなどを行う外来です。退院後も医師と協力し、継続して患者さんの療養支援を行います。

福島医大病院には、いくつかの看護外来がありますが、その1つにストーマ外来があります。

ストーマ外来では、おもにストーマ（人工肛門・人工膀胱）を持っている患者さんのセルフケア指導、日常生活やトラブルの対処についてサポートを行っています。各診療科からの紹介により、創傷（床ずれなど）や失禁、スキントラブルといった皮膚や排泄に関する総合的なケアも行っています。

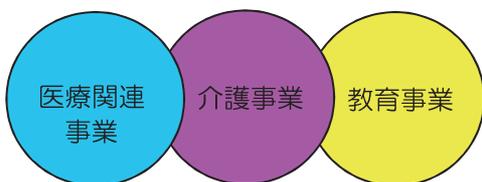
外来は予約制で、専門の看護師（皮膚・排泄ケア認定看護師）が担当しています。外科外来の診察室の1室で、患者さんとコミュニケーションをとりながら実施しています。安心して日常生活がおくれるよう、不安や悩みの解消に努めています。

他病院・施設で手術を受けられた方も受診が可能です。お問い合わせ・予約受付窓口は、外科外来となっております。お気軽にご相談下さい。

第19号のなかみ

- 2 ページ……○内視鏡診療部の診療について
○あなたの健康、見守ります。
- 3 ページ……○読響ハートフルコンサート 癒しの調べ
○「パンダハウス」チャリティーバザーが開催されました
○平成24年度高校生の一日看護体験
○病気のまめ知識 子どもの予防接種
- 4 ページ……○リレー通信
○福島県病院給食連合研究大会 優良調理師表彰
○当院の小児食メニューの紹介

全国展開するニチイの3つの事業



株式会社 ニチイ学館

福島市栄町6-6 UNIXビル3F
TEL 024-524-2835 Fax 024-522-0306

マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）



2005年10月に大学附属病院の中央部門の1つとして“内視鏡診療部”が新設されました。2010年1月に内視鏡診療部は院内で移転し、環境整備が行われ、新しい体制の下に、より安全かつ効率的で高度な内視鏡診断・治療を提供できる診療体制となりました。現在、内視鏡診療部では、上部消化管内視鏡、小腸内視鏡、大腸内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡などによる検査および治療と、カプセル内視鏡による検査を行っています。内視鏡診療部の医師（内視鏡専門医・指導医）のほか、消化器内科始め各診療科の先生方の協力のもと、年間約6,000件の内視鏡診療を行っています。そのうち内視鏡治療が1/6を占めています。内視鏡診療として、消化管出血に対する止血術、食道・胃静脈瘤の治療、早期癌（食道癌、胃癌、大腸癌）の治療、消化管狭窄に対する治療（拡張術やステント留置術）、胃瘻造設術や胃瘻チューブ交換、腸閉塞に対する治療（イレウス管挿入）、異物除去、腫瘍焼灼術、十二指腸乳頭部切開術による総胆管結石除去、閉塞性黄疸に対する治療（胆管ドレナージなど）、超音波内視鏡下穿刺術による診断（粘膜下

腫瘍、リンパ節転移、膵癌など）や治療（膵嚢胞ドレナージなど）などを行っています。以上のように、内視鏡診療全般にわたり、最新、最良の医療を患者さんに提供できるよう体制を整えているとともに、内視鏡医始めスタッフ一同が常に研鑽を積み重ねながら、より良い医療のために日夜努力しています。また、技術面だけでなく、すべての患者さんに安心して検査、治療を受けていただけるようスタッフの教育にも力を入れております。週1回スタッフ会議を開き、問題点の改善を図るとともに、常に患者さんの視点で診療を見直し、さらなる改善点がないかを話し合っております。あらゆる内視鏡診療に対応していますので、いつでもご相談下さい。



あなたの健康、見守ります。

福島県では原子力災害による放射線の影響を踏まえ、県民のみなさんの健康を長期にわたり見守っていきます。その基本となるのが「県民健康管理調査」です。

「県民健康管理調査」の内容は、次の5項目です。

- 1 基本調査（問診票による被ばく線量の把握）
- 2 甲状腺検査
- 3 健康診査
- 4 こころの健康度・生活習慣に関する調査
- 5 妊産婦に関する調査

これらの調査は、「福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター」が中心になって、県内、県外の医療・保健・福祉関係者の協力を得て実施しています。今回は、1の「基本調査（問診票による被ばく線量の把握）」についてお知らせします。

県民健康管理調査の「基本調査」は、東京電力福島第一原子力発電所の事故後、空間線量が最も高かった時期の放射線による外部被ばく線量を推計するため、全県民の皆さまを対象に実施するものです。



これは、問診票に皆さまの3月11日～7月11日までの期間中、「いつ」「どこに」「どのくらいいたか」などをご記入いただくことにより、外部被ばく線量を推計するものです。

家計簿や日記、携帯電話のメールなどを見返したり、ご家族やご一緒に行動された方々のご相談されるなどして、当時のことを思い出していただき、お手元の問診票にご記入の上、同封の返信用封筒でご返送くださいますようお願いいたします。

お手数をおかけしますが、ご記入いただくことが、皆さまの健康を見守る土台になります。十分にご理解いただき、ご記入をお願いいたします。

結果は、皆さまお一人お一人にお知らせいたします。

なお、県内では、基本調査問診票の書き方相談なども行っております。詳しくは放射線医学県民健康管理センターのホームページでご確認ください。

URL <http://fukushima-mimamori.jp/basic/basic-info02.html>

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

電話：024-549-5130（土日祝日を除く 9:00～17:00）

メール：kenkan@fmu.ac.jp

読響ハートフルコンサート 癒しの調べ

6月8日に読売日本交響楽団による「読響ハートフルコンサート」が病院玄関ホールで開催されました。このコンサートは、がん患者さんやその家族への支援事業に取り組む公益財団法人正力厚生会が、2007年から全国各地の病院で開催しており、福島県では初開催で、30回目の節目の開催となりました。

今回は東日本大震災からの復興支援も兼ね、読売日本交響楽団の赤池瑞枝さん、小田透さんがバイオリン、三浦克之さんがヴィオラ、渡部玄一さんがチェロ奏者で弦楽四重奏団として出演しました。モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第1楽章」など有名なクラシックや「星に願いを」などのポピュラーに加え、復興を祈念し「会津磐梯山」など8曲が演奏され、患者さんやその家族、また、医療スタッフなど約100名が癒しの音色を心穏やかに聴き入りました。アンコールでは童謡「ふるさと」が奏でられ会場全体が歌声を重ね、心温まるひとときを過ごしました。

最後にコンサート開催に関わりました全ての皆様に御礼申し上げます。



「パンダハウス」チャリティーバザーが開催されました

8月7日～8日の2日間、病院玄関ホールにおいて「NPO法人パンダハウスを育てる会」によるチャリティーバザーが開催されました。バッグや小物、アクセサリーなど会員による手作りの品々が展示されました。おかげさまをもちまして、たくさんの方にご来場いただき、大変盛況のうちを終了いたしました。

「パンダハウス」は医大病院の小児科に入院中の患者さんとそのご家族に“もうひとつのわが家”としてご利用いただけるようにと福島市蓬萊町に設立された宿泊施設です。現在では小児科に限らず、医大病院に入院・通院中の患者さんとそのご家族に外泊や休息のため広くご利用いただいております。

「パンダハウス」は会員会費、今回実施されたバザー収益、一般の方からの募金、ボランティア・スタッフによるサポートにより運営されております。今後とも、パンダハウスへのご理解をいただきますようお願いいたします。

(なお、次回のチャリティーバザーは平成24年12月頃を予定していますので、是非お立ち寄りください。)

NPO法人 パンダハウスを育てる会事務局

☎ 548-3711



平成24年度高校生の一曰看護体験

看護部 尾形 瑞子

平成24年7月27日（金）県内の高校生を対象に「高校生1日看護体験」が実施されました。当院でも県北地区の高校生20名が参加し、看護体験や院内の見学を実施しました。

将来看護師を目指している高校生は熱心に参加されていました。最後の反省会では、この体験を通してさらに看護師を目指し、福島県の医療に貢献したいという気持ちが強くなったとの声が聞かれ、高校生が大変頼もしく見えた一日でした。



病気のまめ知識

子どもの予防接種



小児科 部長 細矢 光亮

予防接種は、感染症のコントロールに最も大きな影響を与える要因のひとつで、人類がこれまでに受けた恩恵は計り知れません。かつて恐れられた天然痘は地球上から根絶され、小児麻痺（ポリオ）はアフリカやアジアの一部地域を除き撲滅されました。麻しん（はしか）は、

数年前まで国内で毎年数万～数十万人が罹患する感染症でしたが、ワクチン接種率が向上し、2回接種が行われるようになって、年間数百名まで減少しています。このように、ワクチンの有益性については議論の余地がないところですが、一旦感染症の流行が抑えられるとワクチンによる予防効果は見えなくなり、逆に有害事象や副反応などが取り沙汰されて、1989年から約20年間にわたり接種可能なワクチンが増えず、日本の予防接種制度は諸外国に比べて大きく

後退しました。

しかし、この数年で日本における状況は改善されつつあり、接種可能なワクチンの種類が増加しました。現在、子どもが接種を受けられる主なワクチンには、予防接種法により規定された定期接種ワクチン（ジフテリア・百日咳・破傷風三種混合、ポリオ、麻しん・風しん、日本脳炎、BCG）と、自主的に接種する任意接種ワクチン（インフルエンザ菌b型、肺炎球菌、水痘、おたふくかぜ、B型肝炎、A型肝炎、ヒトパピローマウイルス）があります。また、ヒトパピローマウイルス、インフルエンザ菌b型、肺炎球菌（小児）は、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業により、接種費用の公費助成がなされています。定期接種、任意接種を問わず、ワクチンで予防できる疾患はワクチンで予防すべきです。お子さんの予防接種については是非主治医の先生に相談し、よくご理解いただいた上で、接種が推奨されている時期が来たらなるべく早く、接種を受けることをお勧めします。

リレー通信

けやきの会 齋藤 三男



2年ほど前よりボランティアに参加しています。僅かでも患者さんのお役に立てればという気持ちから始めました。今年で70才になりますが、参加当初は、現役時代は主に技術畑を歩んできたことから、年寄りの心配事で果たして異なる分野で私に病院ボランティアが務まるのか、と真剣に考えていました。しかし、この心配事は、高齢の私にとっては前向きで新鮮なことでした。

約2年間の経験の中で、ボランティアには積極的介助と消極的介助があるのだということを学習しました。ボランティア活動として私は、患者さんに対し常に積極的介助を念頭に行動したいと思っています。

病院ボランティアを通し、見知らぬ人にでも声をかけられるようになったのが、自分自身にとっての収穫でした。今後も体力のゆるす限り患者さんのお役に立ちたいという思いを胸に頑張っていきたいと思います。それが患者さんにとってはもともと私にとってもいろいろな意味で支えになると思うからです。

福島県病院給食連合研究大会 優良調理師表彰

平成24年7月6日、第52回 福島県病院給食連合研究大会が郡山市で開催され、当病院からは、鈴木亨主任調理師、大橋理恵調理師のお二人が優良調理師として表彰の栄誉を受けられました。

鈴木亨さんは20年、大橋理恵さんは19年の長きにわたり、医事課栄養管理係に勤務し、病院調理師として他の職員の模範的存在として、誠実に職務を全うして患者給食に携わってこられました。食事は治療の基本であり、入院生活の中では患者さんにとって楽しみの一つです。お二人にはこれからも健康に留意されてますますのご活躍を期待します。

当院の小児食メニューの紹介

医事課栄養管理係 関川 渚

栄養管理では6月から小児科病棟の病棟訪問を開始しました。それに伴い七夕には小児科病棟と小児食を食べている患者さんに七夕メニューを提供しました。今回はそのメニューをご紹介します。

今回のメニューは

- ・エビピラフ
- ・ジュリアンスープ
- ・手作りハンバーグ
- ・フライドポテト
- ・ナポリタン
- ・サラダ
- ・七夕ゼリー でした。



病棟訪問の時に要望の多かった子供向けのメニュー（ハンバーグやナポリタン）を取り入れ、食器もお子様ランチ用にしたら患者さんからもとても好評でした。

一口メモ

ジュリアンスープのジュリアンとは？

フランス語で野菜、肉類、その他の食品を細くせん切りしたものの総称です。

ジュリアン、もしくはジュリエヌと呼ばれています。

ジュリアンスープはご自宅でも簡単に作ることができますので是非お試しください。



すべてを地域のために

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは 福島医大病院支店

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間:平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

